

ほけんだより 1月

空気が乾燥した白が続き、全国的にインフルエンザの流行がはじまりました。休み明けにインフルエンザの報告がふえてきました。感染予防は、うがい・手洗い・休養です。

私たちの体にある免疫力(病気とたたかう力)は、実は生活のしかたによって変わります。よく眠り、バランスよく食べ、規則正しい生活をしている人ほど免疫力はアップします。みんなでかぜに負けない体をつくりましょう。

保護者の皆様へ

天神インフルエンザ情報

神奈川県では、現在インフルエンザ流行警報が発令中です。

市内は、注意報となっています。ですが、1月の第3週の三連休明けから、集団かぜ(インフルエンザ含む)による学級閉鎖が増えています。今後、さらなる注意が必要です。

<1/21 現在、市内の学級閉鎖状況>

- ・小学校で 24校、100学級
- ・中学校で 9校、55学級



本校では、2学期末に3クラス(5年2クラス、6年1クラス)学級閉鎖の措置をとりました。

1/21現在、合計56名(全体の約10.4%の罹患率)となっています。

また、型のちがうA型に2度罹患した報告もあがっていますので、まだまだ油断はできません。

学校では、ひき縮きうがい・手洗い・換気指導を行い予防に努めたいと思います。

ご家庭におかれましても、朝のお子様の健康観察を、注意深くお願いいたします。

(“外傷なしの筋肉痛”や“食欲不振”、“ひどくだるい”などの症状がないか)。

朝から体調が優れないときは、無理な登校はひかえて自宅で様子を見ていただけますようお願いいたします。なにより、お子様が1番つらいと思います。

そして、ご家族に罹患者が出た場合は、お子様に症状がでていなくても(潜伏期間かもしれません)、マスクを着用していただくなどの予防対策をお願いいたします。

医師からインフルエンザの診断をうけたら、学校までご連絡ください



＊じつは冬も大切＊

水分補給



2019年1月19日(土) 読売新聞より抜粋

厚生労働省は18日、インフルエンザの患者数が13日までの1週間で1医療機関当たり38・54人となり、今季初めて警報レベルの30人を超えたと発表した。厚生省によると、約5000人の内科、小児科から報告があった患者数は19万527人。全国の推計患者数は163・5万人で、前週(58・6万人)の2・8倍に急増した。

インフル警報

都道府県別にみると、愛知が75・38人と最も多く、熊本58・79人、岐阜53・94人が続いた。30人を超えているのは、東京31・71人、大阪36・81人、福岡51・87人など32都道府県に上る。同省によると、昨年12月前半以降に検出されたウイルスは2009年に新型として流行したA型のH1N1が67%を占め、A香港型は33%、B型はごくわずかだ。

急激に進行する

頭痛

さむけ

だるさ

熱が高い(38度以上)

筋肉や関節のいたみ

